

長野県の文化財を
写真で紹介する

信州の文化財 ガイドブック



長野県観光PRキャラクター「アルクマ」

発行

長野県文化財活用活性化実行委員会
(長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課内)
TEL.026-235-7441 FAX.026-235-7493
e-mail:bunsho@pref.nagano.lg.jp



平成25年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産を活かした地域活性化事業)



長野県の文化財を
写真で紹介する



しあわせ
信州

信州の文化財 ガイドブック



長野県教育委員会

はじめに

「文化財」という言葉を聞いて、皆さんはどのようなものを思い浮かべますか？立派なお城ですか？ありがたい仏像ですか？当然、そういったものもありますが、昔の人々が暮らしていた跡などの史跡や、国土の成り立ちを知ることができる地層などの天然記念物も文化財の仲間です。他にもまだまだ種類があります。

文化財は、先人達が守り、受け継いできた地域の「宝」です。私たちの長野県には沢山の文化財があり、今を生きる私たちは、先人達と同じように、適切に後世に引き継いでいく責任があります。

長野県教育委員会では、県内の文化財を県民の皆さんに知っていただき、地域に誇りを持っていただくとともに、文化財を核として地域の活性化などに取り組んでいただくきっかけになることを期待して、文化財をわかりやすく紹介するガイドブックを作成いたしました。

多くの県民の皆様、県内の文化財に興味を持っていただき、地域の歴史や将来の長野県を考える一助としてご利用いただければ幸いです。

長野県教育委員会

もくじ

- 1 文化財ってなに？
- 2 美術工芸品
- 8 建造物
- 14 民俗文化財
- 16 埋蔵文化財
- 18 史跡
- 22 重要文化的景観
- 24 名勝
- 28 天然記念物
- 32 本文で紹介している長野県内の文化財
 - ・北信エリア
 - ・東信エリア
 - ・南信エリア
 - ・中信エリア

※本書に掲載した写真は、各市町村教育委員会及び所蔵者・所蔵機関から提供いただきました。厚く御礼申し上げます。

文化財ってなに？



文化財保護法では、文化財を「有形文化財」、「無形文化財」、「民俗文化財」、「記念物」、「文化的景観」及び「伝統的建造物群」と定義しています。

これらの文化財のうち、重要なものを国や地方公共団体が指定・選定・登録し、重点的に保護しています。国の場合、文化財の指定・選定・登録は、文部科学大臣が文化審議会に諮問し、その答申を受けて行うこととされています。また、地方公共団体については、各文化財保護条例を制定して保護しています。

なお、無形文化財、無形民俗文化財では、指定のほかに記録作成等の措置を講ずべきものを国の場合は文化

庁長官が選択し、その記録の作成に努めています。

そのほかに、土地に埋蔵されている文化財を「埋蔵文化財」、文化財の保存・修理に必要な伝統的技術・技能を「文化財の保存技術」と呼び、保護の対象としています。

長野県の場合、文化財保護条例を制定して保存及び活用に努めていますが、有形文化財に関して長野県が指定した文化財を「長野県宝」と呼ぶ点が他の地方公共団体にはない特徴です。

最近では、文化財保護法の保護対象を含むより広い範囲を「文化遺産」「記憶遺産」などとして保護しようとする機運が盛り上がっています。

文化財保護法(国)及び文化財保護条例(長野県)に定められる文化財



※本書で紹介する指定文化財の件数は、平成26年3月現在のものです。

国
長野県

国
宝



有形文化財のうち、建造物を除いた絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料などを総称して「美術工芸品」と言います。

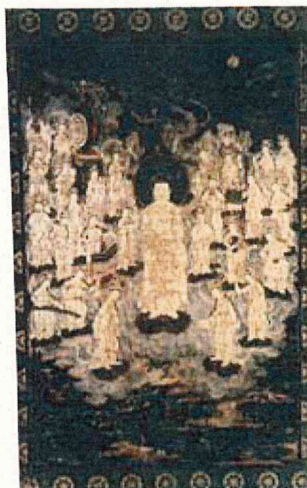
国はこれらのうち重要なものを重要文化財に指定し、さらに世界文化の見地から特に価値の高いものを国宝に指定し、県でも重要なものを県宝として指定して保護しています。

絵画 重要文化財16件、県宝20件が指定されている絵画の多くは仏画です。



けんぽんちやくしよくとくたいし
絹本著色聖徳太子
わちやうせんとくれんぎらいぞう
和朝先徳連坐影像
つけたりけんぽんちやくしよく
附絹本著色
あみだよらいえぞう
阿弥陀如来絵像
(県宝:上松町教育委員会蔵)

上松町の東野阿弥陀堂に伝来したものであり、本来はすでに失われた「十三仏」という仏画と併せて、三幅一対であったとされています。最大の特徴は、和朝先徳の中に、如信、覚如が描かれていることであり、同様のものは他に三例しかありません。



けんぽんちやくしよく
絹本著色
あみだしょうじゅうらいごうず
阿弥陀聖衆来迎図
(国重要文化財:長野市・善光寺蔵)

西山の端にかかる満月を背に阿弥陀如来と諸菩薩が極楽浄土から娑婆世界に來迎するという情景描写です。夜景を示すかのように深い藍色の地色で、鎌倉時代にさかのぼる県内最古の來迎図です。

彫刻 重要文化財40件、県宝57件が指定されています。そのほとんどが古代・中世の仏像や神像などです。



せんじゆかんのんぼさつりゅうぞう
千手観音菩薩立像
(国重要文化財:長野市・清水寺蔵)

千本の手と、手の掌の目によってすべての人たちをもらさず救済しようとする慈悲の心を表しているといわれます。本像は、桂材の一本造りで、平安時代前期に製作されたと考えられます。長野県では現存する木造彫刻の中では最古の仏像で、一本造りとしては東日本最古といわれています。



ごこうごんげんぞう
蔵王権現像
(県宝:松本市・牛伏寺蔵)

山岳信仰と陰陽道、仏教が結びついた日本独自の信仰・修験道の信仰の対象となった像です。本像は檜材の一本造りで、躍動する全身の動きや強さがリアルに表現されています。平安時代後期の作と見られ、全国的に見ても古い例の一つです。



ほうじょうとらさきぞう
北條虎吉像

(国重要文化財:安曇野市・碓氷美術館蔵)
安曇野市に生まれ、日本近代彫刻の先覚であり、東洋のロダンとまで呼ばれた萩原礫山の作品です。明治42年の第3回文展に「労働者」とともに出品され、高村光太郎が、この作には人間が見えると激賞しました。(石膏原型が重要文化財)

どうぞうぼさつはんかぞう
銅造菩薩半跏像
(国重要文化財:
松川村・観松院蔵)

7世紀の前半に朝鮮半島で製作された渡来仏とされ、日本の仏像史の黎明を告げる最古級の金銅仏と言えます。優しい微笑みをたたえる表情、三日月や房飾りをあしらった宝冠など、優れた製作技術に、渡来仏の特徴があらわれています。





工芸品

主なものとしては、神仏習合を示す御正体、音を鳴らす梵音具(梵鐘・鉦鼓・鯛口など)や刀剣などがあげられます。重要文化財は18件、県宝32件が指定されています。



しょうこ 鉦鼓
(県宝：中野市立博物館所蔵)
大正5年に堂平地籍(現山ノ内町)から出土。銅製の円面型で、直径は21.3cm、中央に素文の径13.3cmの円形撃打部を設け、中区および周縁にかまぼこ形の子持圏線をめぐらしています。胴部の上方左右には形のよい魚の鱗状の6cm大の吊手がつくりだされ、この吊手には紐を通すために径1cmの孔があげられています。胴には、「観阿弥陀仏 延慶元年(1308年)11月1日」の銘文が陰刻されています。

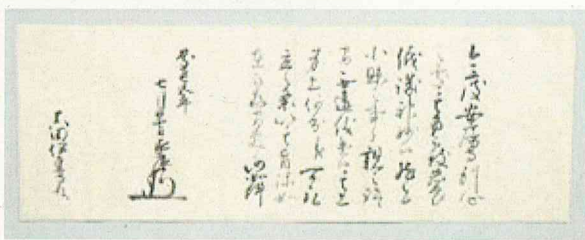
みしょうたい 御正体
(国重要文化財：大町市・仁科神明宮所蔵)
銅製の円板に大日如来などを取り付けた懸仏で、鎌倉時代後期のものです。重要文化財に指定されている5面のほか、11面が附指定を受けています。

書跡・典籍

書跡とは、古筆、墨蹟などのことで、「典籍」や「古文書」から一部分を切り取ったものが大部分です。典籍は、書物の意味で、写本と版本があり、内容から国書(和書)、漢籍、仏典、洋書などに分けられます。重要文化財は7件、県宝6件が指定されています。



そうほんかんじょけいげんかんほん 宋版漢書慶元刊本
(国重要文化財：松本市美術館所蔵)
南宋の慶元初年(1195年頃)に刊行された中国の正史で、世界に三部しか保存されていないものの一つです。



まなだけせんじょ 真田家文書
(県宝：長野市・真田宝物館所蔵)
真田家に代々伝来する381通の文書群です。武田信玄、豊田秀吉、徳川家康などの武将の文書をはじめ、真田家の民政に関する文書も含まれています。

古文書

特定の対象(他者)へ意思を伝えるために作成された文書で、近世以前のものを指します。重要文化財4件、県宝5件が指定されています。



とばいんのちようくだしふみ 鳥羽院序下文
(国重要文化財：長野県立歴史館所蔵)
鳥羽上皇の院序が荘園の管理権を裁定した文書です。信濃国小川庄(小川村付近)の現地管理者(預所)の増證という僧に下されたもの。現存する院序下文の古い例であり、東日本で唯一の原本として古文書学上に価値が高いものです。

ひらさわもんじょ 平沢文書
(県宝：飯田市歴史研究所所蔵)
虎岩村(現飯田市下久堅北原)の庄屋平沢家に所蔵されていたものです。検地や村落の状況を示す文書が著名で、全国的にも屈指の地方文書です。中世末から近世初頭の文書が多く含まれ、庄屋旧蔵の文書として特徴的な構成を示しています。



歴史資料

歴史的事象や人物に関して学術的価値の高いもの、あるいは歴史的事象・人物に関して歴史的、系統的にまとまって存在するもの、などと定義されています。重要文化財2件、県宝は6件が指定されています。

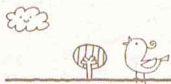


ながのけんぎょうせいふんじょ 長野県行政文書
(県宝：長野県立歴史館所蔵)

旧藩引継文書を含む昭和21年までの長野県の公文書群で、江戸期を含む明治末期までの文書4,897点、大正期3,278点、昭和期2,039点、合計10,214点が現存し、「長野県行政文書目録」行政簿冊1・2として目録が刊行されています。併せて明治初期からの「達」布告など(明治30年から「県報」と称される)の簿冊569点があります。

はんしゃほうえんぎょうくにとせいっかんさいさくてんぼうごねんつけたりおぼえがき 反射望遠鏡国友一貫齋作天保五年(附覚書)
(国重要文化財：上田市立博物館所蔵)
天保5年(1834年)に、幕府お抱えの鉄砲鍛冶であった国友一貫齋(藤兵衛)(1778年~1840年)が、国内ではじめて製作した反射望遠鏡です。本製回転台や太陽観察用のゾンガラス等の附属品類も残り、保存状態がきわめて良好です。江戸時代における天文学並びに金属加工技術の高さを示す資料として、我が国の科学技術史上貴重であり、学術的価値が高いとされています。





考古資料

遺跡から発見された考古資料のうち、造形的に優れたもの、当時の社会や生活を知る上で大きな手がかりになるものが、国や地方公共団体によって文化財に指定されています。重要文化財には、今から30,000年ほど前(旧石器時代)の信濃町日向林B遺跡の石器から、1,000年ほど前の塩尻市吉田川西遺跡の墓から出土した土器・陶磁器等まで10件が、県宝には24件が指定されています。長野県は、「縄文王国」と呼ばれるほど数多くの遺跡があることから、特に縄文時代中期の土器や土偶が数多く指定されているのが特徴です。



じょうもん 「縄文のビーナス」

(国宝：茅野市・尖石縄文考古館所蔵)

棚加遺跡から出土したもので、全長は27センチの大形の土偶です。手は省略されていますが、腕は左右に広げられています。また、小さくつまみ出して乳房が表現され、その下に続くお腹とお尻は大きく張り出しており、妊娠した女性の様子をよく表しています。

かめん めがみ 「仮面の女神」

(国重要文化財：茅野市・尖石縄文考古館所蔵)

中ツ原遺跡から出土した全長34センチの大形の土偶です。国の文化審議会は平成26年3月、この土偶を国宝に指定することについて文部科学大臣に答申しました。



とうないいせきしつどひん 藤内遺跡出土品 (国重要文化財：富士見町・井戸尻考古館所蔵)

藤内遺跡から出土した土器や石器など、199点が指定されています。器面を縦方向にいくつかに区切り、異なる文様を施す区画文土器などが特徴です。過剰ともいえる装飾で飾られた土器は、八ヶ岳西南麓の縄文時代中期文化の繁栄を代表します。



かわらだいいせきしつどひん 川原田遺跡出土品 (国重要文化財：御代田町・浅間縄文ミュージアム所蔵)

川原田遺跡から出土した土器や石器など146点が指定されています。渦巻き状の曲線と耳状の突起で、器面全体に躍動感あふれる装飾をする「焼町土器」がまとめて出土しています。八ヶ岳西南麓とはちがった縄文中期文化が浅間山麓に繁栄していたことがわかります。



建造物

鎌倉期から昭和前期にわたり多くの文化財が残る長野県



国による文化財建造物の保護(重要文化財の指定)は、社寺建築を主たる対象として始まり、城郭や民家、近代洋風建築へと保護の対象が拡大されてきました。近年では近代の建造物(土木建造物を含む)も幅広くその対象となっています。また保護制度も歴史的な集落や町並みを面として捉える伝統的建造物群保存地区制度や緩やかな規制で活用が図られる登録有形文化財制度の導入などにより、多様なものになっています。

地方公共団体でも県宝指定及び市町村指定を行い、文化財建造物を保護しています。



ぜんこうじほんどう
善光寺本堂 (国宝:長野市)
宝永4年(1707年)建築

奥行の深い平面をもつ規模の大きな建物で、独自の形状は仏殿建築として、徳川時代中期における傑作です。



あんらくじほっかくさんじゅうのとう
安楽寺八角三重塔
(国宝:上田市)
鎌倉時代後期建築

初重に裳階をつけるため四重屋根になり、緩やかなこけら葺きの屋根、放射状の垂木など本格的な禅宗様の塔です。



にしなしみめいぐう
仁科神明宮 (国宝:大町市)
本殿・中門(前殿) - 江戸時代中期建築

平安時代の終わりに仁科氏により祀られた神明宮で、20年に1度の式年遷宮が行われています。室町時代からの神明造りの様式を正確に伝えています。



まつもとじょうてんしゅ
松本城天守 (国宝:松本市)
天守・乾小天守・渡櫓 - 文禄2年~文禄3年頃(1593年~1594年頃)建築されたと考えられる辰巳附櫓・月見櫓 - 寛永11年頃(1634年頃)建築
松本城天守は5棟の建物が一体となって組み合わされた変化に富んだ内部空間となっています。

長野県の国宝・重要文化財

県内には、飛鳥時代以降大陸から伝わり平安時代末までに日本に定着した和様の大法寺三重塔、鎌倉時代前期に中国から伝わった禅宗様の安楽寺八角三重塔のような全国的にも名作とされる鎌倉期の建造物、江戸期の寺社・城郭・民家建築の建造物、明治期の学校・ホテル建築の建造物等、全国的に高いレベルの建造物が数多く残っています。



だいほうじさんじゅうのとう
大法寺三重塔 (国宝:青木村)
正慶2年(1333年)建築

純和様で美しい水煙を乗せた安定した容姿をしており、見返りの塔とも呼ばれています。



きゅうみかさ
旧三笠ホテル (国重要文化財:軽井沢町)
明治38年(1905年)建築

明治39年から戦中、戦後の中断期を除いて昭和45年まで営業されました。西翼の張出しや塔屋を設けて左右対称を破った全体の構成など優れた外観です。



きゅうなかごみがっこうせうしや
旧中込学校校舎 (国重要文化財:佐久市)
明治8年(1875年)建築

木造2階建の擬洋風建築で、かつてはギヤマン学校と呼ばれ、屋上の八角塔をもつ洋風校舎の初期遺構として貴重です。



ほりうちけしゅうたく
堀内家住宅 (国重要文化財:塩尻市)
江戸時代中期建築

堀内家は旧堀の内村の名主を代々勤めた豪農です。県内でも有数の大型板葺民家で意匠は力強く優れています。

トピックス

- 重要文化財(建造物)の指定数
全国2,412件(含む国宝218件)
長野県86件(含む国宝5件)
- 登録有形文化財(建造物)の登録数
全国9,423件
長野県428件

長野県宝 (建造物)



県内の建築文化は、寺社建築において中世前期までは、東山道沿いの地域や近畿地方に近い西南部が発達しており、その後、東信地方中心に鎌倉の建築文化の流入がはじまりました。江戸期になりますと、諏訪出身の立川和四郎富棟の活躍から始まった立川流の彫刻が神社建築に活かされています。

長野県は「民家建築の宝庫」と言われており、民家建築では中東信地域には板屋根、東北信地域には茅葺の近世の建造物が多く残されています。近代に入りますと、和風建築のみならず洋風建築を取り入れた建造物が多く建築されました。



やひこじんじや
矢彦神社 (県宝:辰野町)
江戸時代中期～後期建築

諏訪大社独特の社殿形式をもち、諏訪立川流社殿建築の代表作の一つと言われています。



ちこうじやくしどう
池口寺薬師堂 (県宝:大森村)
鎌倉時代後期建築

大規模な薬師像が遺存することあわせて、鎌倉時代の文化をよく示す建築です。



つがねじぼうつう
津金寺宝塔 (県宝:立科町)
鎌倉時代前期建立

3基のうち2基は、東信一帯を支配していた滋野氏が、先祖供養のため建立しました。



きゆうざこうじおみながつこうこうしや
旧座光寺麻績学校校舎 (県宝:飯田市) 明治6年(1873年)建築
小学校校舎でありながら1階は歌舞伎舞台として造られました。



きゆうごりょうきよぐなごやしちようつまごしめつちやうしよせうしや
旧御料局名古屋支庁妻籠出張所庁舎 (県宝:南木曾町)
明治32年(1899年)建築

皇室の御料林を管理するために建てられ、現在は移築復元されています。

トピックス

- ◎県宝(建造物)の指定数71件
- ◎県宝(建造物)の分類別数(件数)
〈近世以前〉神社(16)、寺院(24)、
城郭(1)、住宅・民家(14)、石造(16)
- 〈近代〉学校(5)、官公庁舎(2)、
住宅(2)



うえだじやう
上田城 (県宝:上田市)
寛永2年～寛永3年(1625年～1626年)建築
小諸から入部した仙石忠政が再建した「七ツ櫓」の遺構です。



きゆうあらいけじゆうたく
旧新井家住宅 (県宝:宮田村)
江戸時代中期～後期建築

上伊那郡の中で最古の本陣建物で、移築復元されました。



きゆうまつせと きゆうかいしせいがん
旧松本カトリック教会司祭館
(県宝:松本市) 明治21年(1888年)建築

本格的な洋風住宅建築として建築史上の価値が高く、県内に現存する最古の宣教師館です。



重要伝統的建造物群保存地区



bunkazai no tubo

伝統的建造物群は、「周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの」とされる文化財です。国では、市町村が決定した伝統的建造物群保存地区のうち特に価値が高いと判断されるものを重要伝統的建造物群保存地区に選定します。

県内には、宿場の街道沿いに町屋によって構成された質の高い町並が多く残っています。また、茅葺屋根の建物が点在する山村集落もあります。町並は、現にそこに住む人々の生活の場であり、その保存については住民の理解と協力が必要です。



とうみし うんのじゅく
東御市海野宿伝統的
建造物群保存地区

昭和62年(1987年)4月28日選定

海野宿は寛永2年(1625年)に北国街道の宿駅として開設されました。宿場時代の建物・家並と明治時代以降の養蚕業で栄えた時代の建物が調和よく残されています。

しおじりし ならい
塩尻市奈良井伝統的
建造物群保存地区

昭和53年(1978年)5月31日選定

中山道の宿場町で、木曾11宿中最大の宿です。この地方に特徴的な出梁造の外観を保つ江戸末期から明治期の建物がよく残っています。



なごそまち つまごじゅく
南木曾町妻籠宿伝統的
建造物群保存地区

昭和51年(1976年)9月4日選定

中山道の木曾11宿の一つで、保存地区は宿場地区、在郷地区及びこれらの周辺の3里を含む広範囲にわたっています。宿場地区は江戸末期から明治期の面影をよく残しています。



しおじりし きそひらさわ
塩尻市木曾平沢伝統的
建造物群保存地区

平成18年(2006年)7月5日選定

木曾漆器の産地です。近世後期の地割をよく残すとともに、近世以来の伝統的な町屋や塗蔵などが一体となり漆器生産の町としての特色ある歴史的風致をよく伝えています。



トピックス

- ◎重要伝統的建造物群保存地区の選定数
- 全国106地区
- 長野県5地区

はくぼむら あおに
白馬村青鬼伝統的
建造物群保存地区

平成12年(2000年)12月4日選定

青鬼は小規模な山村集落で、江戸後期から明治の茅葺の主屋や土蔵が建ち、石垣によって築かれた約200枚の棚田及び江戸末期の用水路が残っています。周囲の豊かな環境と一体になって歴史的景観をよく伝えています。



民俗文化財

長野県内には400余の民俗文化財があります。

民俗文化財とは衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋など人々が日常生活の中で生み出し、継承してきたもので、人々の生活の推移を示します。

民俗文化財は、有形民俗文化財と無形民俗文化財の二つに分けられ、生活道具、衣装などが有形民俗文化財で、伝統行事、伝統芸能等が無形民俗文化財となり、国や地方公共団体が指定・選択・登録しています。



農村歌舞伎

長野県の無形民俗文化財の特徴の一つに、農村歌舞伎(地芝居)があります。映画で知った方も多いと思いますが、下伊那郡大鹿村の大鹿歌舞伎をはじめとして、県内各地に農村歌舞伎が根付いて伝承されています。その多くが江戸時代から行われています。

大鹿歌舞伎

(国選択無形民俗文化財:大鹿村)

大鹿歌舞伎の一番の魅力は、基本的な動作を変えずに忠実に約300年伝承されていることです。また、海外公演の実績があるなど、全国の地芝居のリーダー的な存在でもあります。毎年5月3日と10月第3日曜日に公演が行われます。



中尾歌舞伎

(市指定無形民俗文化財:伊那市)

起源は江戸時代の明和4年(1767年)頃、この地に旅芸人が来て、上中尾の山の神様を祀ってあった神社の前宮で演じたのが始まりとされています。天保時代から大正時代まで盛んに演じられました。戦時中は中断しましたが、地域の若者が、戦前に歌舞伎を演じた経験を持つ古老の指導を仰ぎ、復活上演を行いました。以後、毎年4月と11月に定期公演を行っています。



裃津東町歌舞伎

(市指定無形民俗文化財:東御市)

江戸時代の寛延4年(1751年)頃から演じられているといわれ、戦時中は中断したものの、現在まで地元の人々によって継承されています。「舞台仕込帳」などによって多くの演目が公演されています。毎年4月29日に公演を行っています。



|伝|統|行|事|

小菅の柱松行事

(国重要無形民俗文化財:飯山市)

飯山市瑞穂の小菅地区で3年に1度行われる小菅神社の例大祭です。柱松行事は、上(かみ)・下(しも)に分かれた若衆と松神子が柱松頂部の尾花への点火の早さを競い、天下太平、五穀豊穡を祈願するものです。開催年の7月15日に近い日曜日に行われます。



和合の念仏踊

(国重要無形民俗文化財:阿南町)

阿南町和合地区で、約270年前から伝わるとされる念仏踊です。毎年8月13~16日に行われます。地区内の熊野神社、庄屋の宮下家、林松寺と移動し、笛や太鼓、カネの音に合わせて踊ります。



トピックス

長野県内には国指定・選択・登録の民俗文化財が45件、県指定・選択民俗文化財は59件あります。

無形文化財

演劇、音楽、工芸技術等で歴史上または芸術上価値の高いものを「無形文化財」といいます。無形文化財は、人間の「わざ」そのものであり、具体的にはそのわざを体得した個人または個人の集団によって体现されるものです。県指定には、日本刀制作技術があります。

芦ノ尻の道祖神祭り

(県指定無形民俗文化財:長野市)

長野市大岡芦ノ尻地区で毎年1月7日に行われる行事です。一年の無病息災を祈願し各家から持ち寄られた注連縄でムラ境の石造道祖神碑に神面を装飾します。石塔を芯として造形される神面のみの装飾は他に例をみないものです。長野オリンピックの開会式に登場したこの道祖神は、世界中の人々から賞賛されました。



|有|形|民|俗|文|化|財|

木曾塗の製作用具及び製品

(国重要有形民俗文化財:塩尻市)

江戸時代の中期に、中山道を往来する旅人を相手に、豊富に産出するヒノキなどを材料として、曲物や櫛といった日常雑器を作り始めたのが始まりです。これらが旅人により京都や江戸へ運ばれました。本地のもつ木目の美しさを生かすため、下地を付けずに生漆を何度も塗り込んでしみ込ませる手法等が、木曾塗の特徴です。





埋蔵文化財

長野県には約15,000箇所の遺跡が存在、全国第8位を誇ります



埋蔵文化財とは、文化財が地中に埋蔵されており、土地と結びついている状態をさします。一般には「遺跡」や「遺物」にあたり、考古資料が主な対象となります。埋蔵文化財は、埋蔵物のすべてを保護の対象とする特質から、それを包蔵する範囲を「埋蔵文化財包蔵地」に定めて現状保存し、国民全体に知らせることで共有財産として保全を図っています。何らかの事態により埋蔵文化財が土地から切り離されてしまう場合には、特別な保護の措置、「記録保存」が必要となり、「発掘調査」を行うことになります。



bunkazai no tubo

遺跡と遺物

文化財保護法では、埋蔵文化財の取扱いとして、貝塚や古墳、都城跡などの遺跡を「記念物」に、考古資料（遺物）を「有形文化財」に区分します。また記念物のうちで重要な遺跡を「史跡」に、有形文化財のうちで重要な遺物を「重要文化財」や「国宝」に指定し保存することとしています。

日本には約46万5千箇所の埋蔵文化財包蔵地すなわち遺跡があり、長野県には約1万5千箇所が存在します。その数は全国第8位を誇り、40%が縄文時代、22%が古代であるのが特徴です。



遺跡の現状(田畑や道路の現況)

遺跡の発掘調査

発掘調査には、開発事業にともなうものや学術目的で行うものがあります。多くの場合は前者にあたり、記録保存の目的で発掘された後に壊されてしまいます。



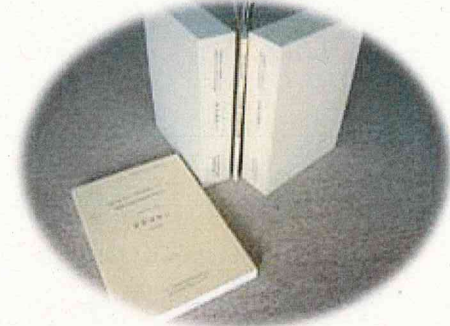
道路建設に伴う発掘調査。数多くの住居跡が発見され、古代の集落跡がよみがえる。



おびただしい数の土器が出土し、弥生時代の廃棄場が姿をあらわす。

遺跡の活用

遺跡の発掘調査は、埋蔵文化財の特質をよく理解した上で適切に進められ、「発掘調査報告書」の作成により資料化されて保存されます。遺跡は、その所在する地域の歴史や文化を形づくり、地域アイデンティティを創出する源であり、永遠にその地に残り留まるべき「遺産」といえます。調査地に解説板を設置すること等で、未来へと継承されます。



発掘調査報告書は、破壊される遺跡を記録保存した資料(千曲市社宮司遺跡、東條遺跡)



発掘調査地に遺跡解説板を立て、過去人類の痕跡を永遠にその地に残す(千曲市東條遺跡)

記録保存とは?

発掘される遺跡は、図面と写真、文章の3点から記録され恒久的に保存される。

出土文化財とは?

遺跡から出土した遺物は、遺失物法上の埋蔵物にあたる。後に文化財としての認定を受けることで、文化財保護法の適用を受ける。

遺物の管理と活用

発掘調査報告書により資料化された遺物は、博物館等に収蔵されて万全な体制で保存管理されます。地域の歴史や文化を理解するための具体的な資料として、地域教育や社会教育に活用されています。



博物館に管理保管される出土遺物(千曲市社宮司遺跡、平安時代の地鎮的遺構から出土・長野県立歴史館所蔵)



数多くの埋蔵文化財が収蔵され、地域教育等に活かされる(長野県立歴史館、千曲市屋代)





史跡

～歴史の舞台となった場所を保存し、整備・活用する～



さまざまな種類の遺跡のなかでも、将来にわたって保護する必要がある重要なものは、国が「史跡」、地方公共団体が「県史跡」「市町村史跡」として指定し、保存・活用が図られています。遺跡は歴史の舞台となった場所ですから、史跡はその代表といえます。また、国の特別史跡には国の史跡のうちでも学術上の価値が特に高く、わが国文化の象徴たるものが指定されます。



とがりいしせきじだいせき
尖石石器時代遺跡
(国特別史跡：茅野市)

尖石遺跡・与助尾根遺跡(写真)・与助尾根南遺跡が特別史跡として指定されています。戦前から発掘調査が行われ、全国的にも広く知られる縄文時代中期の大集落跡です。



いどじりいせき
井戸尻遺跡(国史跡：富士見町)

尖石遺跡とともに八ヶ岳山麓を代表する縄文中期の集落跡であり、広大な史跡公園は人々の憩いの場ともなっています。井戸尻考古館の縄文土器も見ごたえがあります。



ほしくそとうげこくようせきげんざんちいせき
星箕峠黒曜石原産地遺跡
(国史跡：長和町)

縄文時代の黒曜石採掘坑が200基以上も確認され、黒曜石鉱山といえるものです。整備に向けて実施した発掘調査には地元の保育園児も訪れ、熱心に見学していました。今後、採掘坑の整備を進めていきます。



わっぱらいせき
上原遺跡(県史跡：大町市)

縄文時代前期の環状にめぐる立石が発見され、日本最古級のストーンサークルとして注目を集めています。

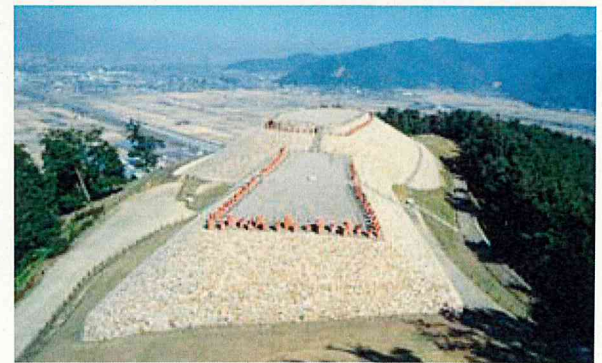


ひらいでいせき
平出遺跡(国史跡：塩尻市)

整備が完了した史跡公園には、写真の古墳時代のムラの他にも、縄文時代と平安時代のムラが復元されています。

もりしょうぐんづかふん
森將軍塚古墳(国史跡：千曲市)

県内最大の全長100mの前方後円墳です。周辺の倉科將軍塚古墳、土口將軍塚古墳、有明山將軍塚古墳とともに埴科古墳群として広域指定されています。



長野県の史跡



bunkazai no tubo

県内では国史跡33件(他に特別史跡1件)、県史跡70件が指定されており、集落跡や古墳、城館跡、社寺跡・祭祀遺跡の他、古道や開所跡、江戸時代や明治時代の学校跡、歴史にゆかりのある人物の旧宅や墓所、墓碑などがあります。このなかには縄文王国と呼ばれるほど繁栄した縄文時代の集落跡や石器の材料として全国へ運ばれていた信州最初のブランド品である黒曜石の原産地遺跡、峠で神まつりを行った遺跡など長野県に特徴的なものも少なくありません。



おむむろこふんぐん
大室古墳群 (国史跡: 長野市)

500を超える古墳のなかでも、石を積んで墳丘をつくった積石塚古墳が400基以上も集中するという全国でも他に例をみない古墳群です。



みさかとうげいせき
神坂峠遺跡 (国史跡: 阿智村)

古墳時代に峠で神まつりが行われていた祭祀遺跡です。峠祭祀の遺跡は全国でも長野県にしかみられませんが、その代表的なものです。



しなのこくふんじあと
信濃国分寺跡 (国史跡: 上田市)

奈良時代に創建された信濃国の国分寺跡(僧寺跡・尼寺跡)が発掘調査により明らかとなりました。史跡公園には基壇や建物の礎石等が復元されています。



みさやまいせき
御射山遺跡 (県史跡: 諏訪市)

霧ヶ峰高原にあり、諏訪大社下社の狩猟神事である御射山祭が行われた中世の祭祀遺跡です。今も残る階段状の遺構は、祭の参詣者の座席とみられています。



きりはらじょうあと
桐原城跡 (県史跡: 松本市)

5つの城からなる県史跡小笠原氏城跡のひとつで、石積みが多く用いられていることが特徴的な中世の城跡です。



長和町 唐沢一里塚



なかせんどう
中山道
(国史跡: 長和町、南木曾町)

南木曾町
妻籠峠付近

江戸時代の五街道のひとつで、県内では長和町の一区間と南木曾町の二区間が指定されています。また関連所跡では福島関(木曾町)が国史跡となっています。

トピックス

◎歴史にゆかりのある人物の旧宅
国史跡では小林一茶旧宅(信濃町)、県史跡では佐久間象山宅跡(長野市)、多田加助宅跡(安曇野市)、山浦真雄宅跡(東御市)、惠端禅師旧宅正受庵(飯山市)、福島正則屋敷跡(高山村)があります。

◎石器時代遺跡
尖石石器時代遺跡のように「石器時代」を冠する名称は戦前に指定されたものにみられ、県内では他にも上之段石器時代遺跡(茅野市)、寺ノ浦石器時代住居跡(小諸市)、成立石器時代住居跡(東御市)があります。いずれも縄文時代の集落跡です。



まつしるじょうあとつけたりしんごてんあと
松代城跡附新御殿跡 (国史跡: 長野市)

松代城の城外につくられた大名家の御殿建築です。お庭とともにほぼ完全な形で残されたものは少なく貴重です。また整備も完了しました。松代藩に関連する国史跡には、他にも旧文武学校、松代藩主真田家墓所があります。

たつおかじょうあと
龍岡城跡 (国史跡: 佐久市)

函館の五稜郭と並び、日本で2つしかない西洋式の星形城郭です。田野口藩の陣屋として江戸時代末期の慶応3年(1867年)に建設が終了しました





重要文化的景観

「なりわいの形」を大地に刻む文化財



国が選定する「重要文化的景観」は、平成17年に生まれた新しい文化財類型で、本県では「姨捨の棚田」がこれにあたります。「景観」というと「美しいもの」と思われがちですが、この文化財の「景観」とは、土地利用のあり方や仕組みが生み出した景色のことです。偶然美しい場合もありますが、肝心なのは美ではなく、「その土地に重層的に刻まれた人々の営み」なのです。人々の生活や産業のありかたの象徴として景観を守るといふ、世界遺産の保護から生まれてきた考え方です。


おぼすて たただ 姨捨の棚田 (千曲市)

姨捨の棚田は、名勝「姨捨(田毎の月)」の指定範囲を含む千曲市八幡の棚田の広い範囲を選定した文化的景観です。姨捨は山体崩壊や土石流で形成された斜面なので崩れやすく、農地とりわけ水田として利用するのはもともと困難な場所です。

そこで、更級川の上流に溜池を造り、川を水路として姨捨まで流すという灌漑体系を作りました。しかし、姨捨の斜面は小さな尾根と谷が集まっているため、斜面全体に用水を張り巡らせるのは容易ではありません。ここで採用されたのが「田越」の灌漑で、ガニと呼ばれる暗渠や、畦越して田から田へと水がめぐらされています。田をめぐった水は下方の集落でも利用されており、水田と集落が一体となった水利体系と景観、それらを支える武水別神社を核とした地域共同体が重要文化的景観の骨格です。



姨捨の棚田 姨捨のうち姫石地区の棚田景観



文化的景観の種類

文化財として選定されている重要文化的景観ではありませんが、長野県内には、あちこちに良好な「文化的景観」が残されています。特徴に注目していくつか具体例を挙げてみましょう。

急傾斜地の居住・生業

(飯田市の下栗集落ほか)

南アルプスの山懐に抱かれ、中央構造線に由来する地滑り地形を利用して急傾斜地に営まれている集落があります。限られた湧水や可耕地を工夫して利用する仕組みが興味深い文化的景観です。県内には、小川村や長野市中条などにも別のタイプの山間集落があります。



下栗集落 飯田市下栗の急傾斜地の集落

安曇野のわさび田・鱒池

(安曇野市・池田町ほか)

扇状地の扇端の地形を利用し、北アルプス由来の湧水を引く複雑な水路網によって築き上げられた「わさび田」「鱒池」と集落が一体となった景観は、近代まで重層的に形成されてきた安曇野を代表する景観です。

硫黄鉱山の文化的景観

(須坂市・米子)

須坂市米子に残る硫黄鉱山跡は、山中に存在した鉱山の遺跡です。最盛期には学校や娯楽施設も備えた「工業都市」と言っても良いところで、残念ながら現在は操業していませんが、鉱工業に関わる文化的景観の一種です。

小菅の文化的景観

(飯山市)

小菅は、交通や水の便が悪い場所、地形・地質の特徴を実に上手く利用して集落が営まれています。その特色は石垣と水路(水回し)の2点に顕著に表れています。集落上方の山際から展開する立派な石垣をもった水田や、かつて「内山紙」として知られた和紙の生産に用いられた集落内の水回しなどは、時代に応じて変化しつつも山に寄り添った暮らしぶりを良く示しています。その土台には中世の山岳霊場の土地利用がひそんでいますので、現地を歩くと様々な場所为重層的な土地利用とダイナミックな変化を目にすることができます。



小菅の里 小菅集落の中心道路は、妙高山に向かっていく



名 勝

時代を超えて継承された美意識 ～天空の景観地 信濃～



「名勝」という文化財は、「名所(なごころ:有名な場所)」と「勝地(しょうち:景色の良い場所)」の両面をあわせ持っています。多くの景勝地の中で、そこが「文化財」として指定されている理由は、「わが国(県)の国土美や美意識の見本」として価値が高いからです。スケールにはかなり幅があり、主として自然の風致景観からなる大規模なもの、庭園のように人為的に作られた景観の2種類があります。後者は「日本人が都市や住居に縮景として自然を取り込もうとした営み」を象徴する文化財です。

こうぜんじていえん 光前寺庭園 (国名勝:駒ヶ根市)

光前寺は駒ヶ根市にある天台宗の古刹です。この寺の境内全域が名勝の指定地ですが、はっきりした庭園は3ヶ所程度です。しかし、この庭園が、どこから観賞するか分りにくいことや、本堂に至る参道の軸線と庫裡(本坊)の軸線が大ききずれていること、さらに、境内に庭園の遺跡のようなものが顔をのぞかせていることなど、光前寺には未解明の部分がたくさんあります。

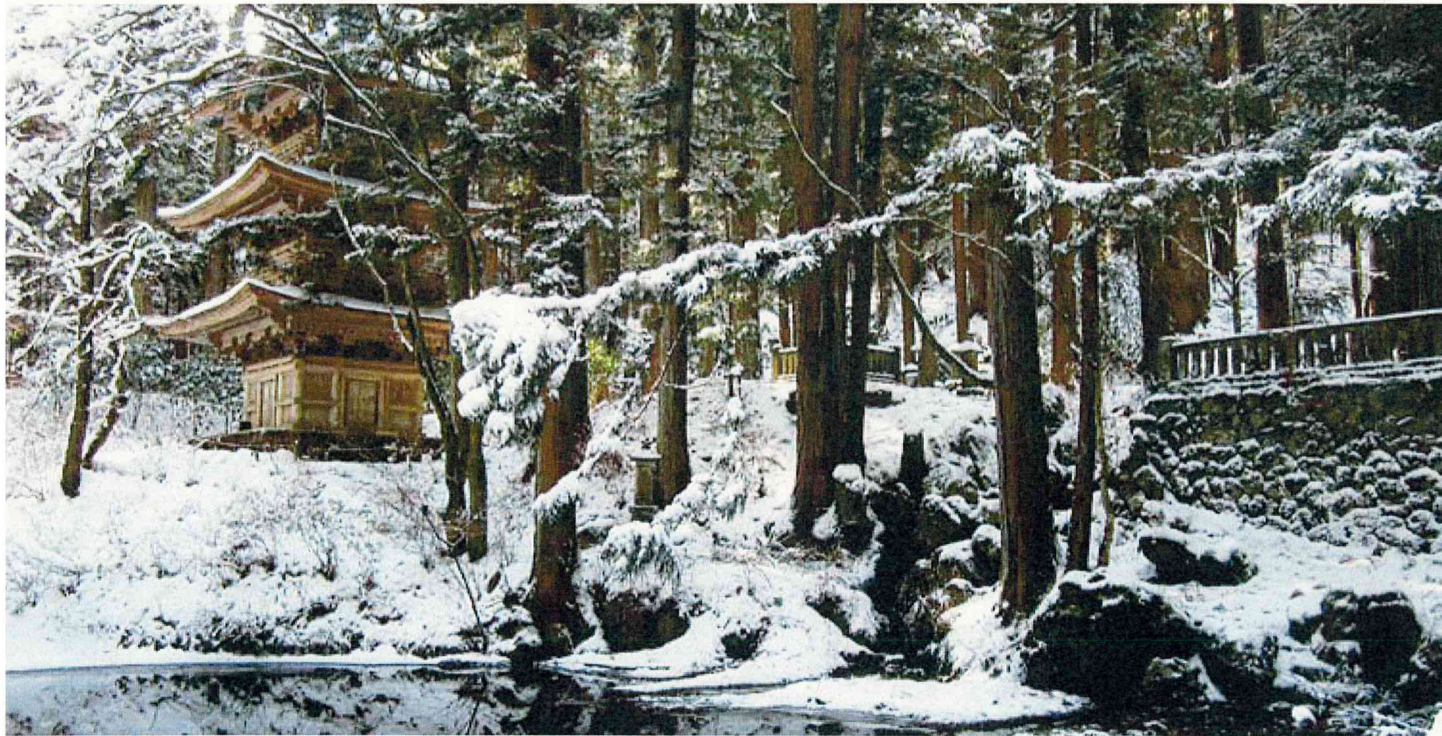
光前寺の成立は、所蔵する仏画から間違いなく中世に遡りますが、中世の文書は少なく、その歴史は十分には解明されていません。しかし、複雑な境内の様相は、その重層的な歴史を反映し、庭園の難解さも繰り返された改修の結果だと考えられます。光前寺の境内は、美意識のうづりかわりを示す文化財(名勝)であるだけでなく、寺院の遺跡としても重要な価値をもつと言えるでしょう。

境内に立ち並ぶ巨樹は、よく見ると太さに差があり、「三本杉」に代表される特に太いものは「賽の河原」など特定の場所に集中し、ほぼ東西と南北の軸線に沿って生えています。本坊の西に広がる森の中には、これと同じ軸線をもつ大規模な遺構群も発見されています。平成25年現在、光前寺境内では、第一期の大きかりな保存修理が計画されており、このような謎に解明の手がかりが得られることも期待されます。

かみこうち 上高地 (国特別名勝及び特別天然記念物:松本市)

遺跡や景勝地などの不動産や動植物等は、「史跡」「名勝」「天然記念物」に指定されます。そして、それらの中で特に価値が高いものは「特別史跡」とか「特別天然記念物」などに指定されます。上高地は「特別名勝」と同時に「特別天然記念物」に指定されています。「特別名勝及び特別天然記念物」という指定は、全国で2件しかありません。では、それほど評価される上高地の価値とはどんなところなのでしょう。

上高地で最も重要なのは、わが国を代表する山岳景観・湿地景観です。W・ウェストンによってアルプスに喩えられた、梓川の浸食で生じた巨大な峡谷美と、豊富な湧水を水源とする明神池などの池や梓川河畔に網の目のように流れる小河川が作り出す湿地の自然美が、その骨格を成しています。さらに、ケシヨウヤ



蝶ヶ岳山頂からの眺望。中央右奥の岩峰が檜ヶ岳。そこから左方に大喰岳、中岳、南岳と続き、稜線が大きく落ち込む場所が「大キレット」。その下方左手前の岩壁が「屏風岩」。写っている範囲の全てが「特別名勝及び特別天然記念物上高地」に含まれ、峡谷の様子が見える。

光前寺の「本堂前庭園」、中島から滝石組みを撮影。左は三重塔。

ナギやハルニレの群落が作り出す植生景観や、焼岳の噴火によって指定前に突然生じた大正池などの火山性の景観が指定範囲の場所ごとに異なる自然景観を形成しています。

上高地の自然景観は江戸時代にはすでに知られており、『信濃奇勝録』には「自然の林泉(庭園)」のようだと記され、「柳林」の存在にも触られています。この時代の景観評価には特色があり、その核心に明神岳と穂高神社奥宮が据えられています。享保9年(1724年)に完成した『信府統記』が、明神池のことを「大明神の御手洗」と記しているのはこれを良く示しています。現在でも「明神橋」の袂に立つと、正面に明神岳がそびえています。

もう一つ忘れてならないのは、「近代登山」の景観です。現在と違って徳本峠や蝶ヶ岳を越えて上高地に入った時代に最初に目に飛び込んできた峰々や、山岳会・大学山岳部が屏風岩などの新しい登攀ルート開拓にしをぎを削った頃の上高地の風景は、登山の景観を代表するものと言えるでしょう。



明神橋から明神岳を望む

ねがめ
とこ
寝覚の床
(国名勝:上松町)

木曾川が基盤の花崗岩を浸食して形成された寝覚の床は、節理に沿って方形に残った白い岩と、その中央にある床島の松の緑のコントラストが核になっています。独特の峡谷の地形と、いわゆる「白砂青松」の景色に似た色彩のコントラスト



寝覚の床、中央の木曾川の右側の岩の上にこんもり茂るのが「床島」の松林

が、名勝的価値の骨格と言えるでしょう。

このような景観特性とは別に、寝覚の床は「浦島太郎」の物語の舞台として知られ、その名も玉手箱を開けるラストシーンに由来すると伝えられています。

「浦島太郎」の物語自体は、室町時代にまとめられた「御伽草子」に収められていることで知られていますが、その原形はすでに万葉集の長歌に見出されます。畿内から信濃に至る主要道が、万葉の時代の神坂峠越え(東山道)から木曾川沿いのルートに変化したのがいつからなのかは、まだ解明されていませんが、「寝覚の床」がどのように名所として認識されてきたのかは、これを解明する手がかりになるかもしれません。



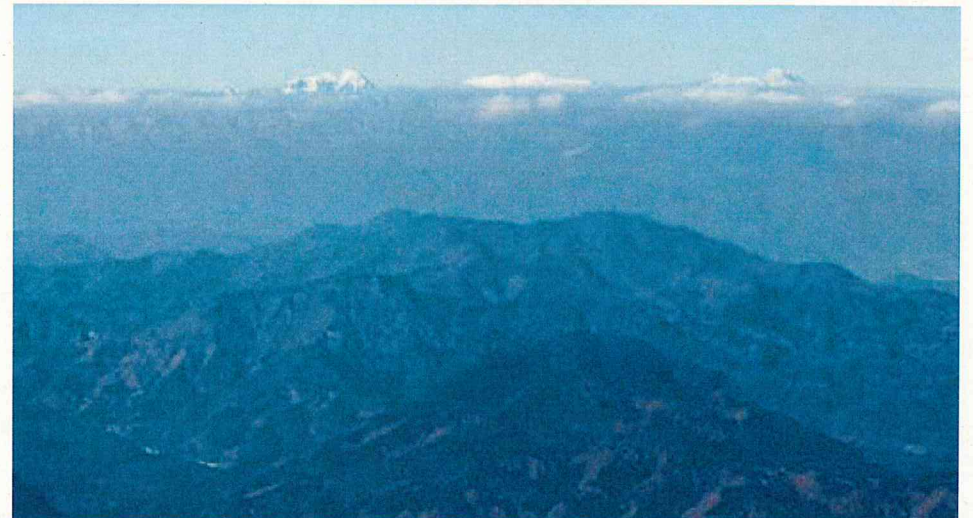
トピックス

長野県内では、国指定4件、県指定6件の名勝があります。

信濃の名勝地を探す
(研究調査から)

わが国(県)の国土美を象徴するものが名勝だとすると、何を美ととらえるかは時代によって変化しますし、これまでは評価されなかった景観があらたに評価されるようになる可能性もあります。

長野県内の名勝に関する資料をできるだけ広い範囲で調べてみると、そのことがよくわかり、古代から近代まで評価されている場所でも、時代によって評価のポイントが変わっています。たとえば、日本アルプスや志賀高原などの景観は近代以降に一気に評価が高まりますが、「美ヶ原」はすでに享保9年(1724年)には富士など信濃国外の高山が展望できる場所と認識されていました。こういった事実から潜在化している景観地を掘り起こすことも、長野県の風致景観を守る上で大切です。



美ヶ原から望む新潟県の山々。信濃の山並みの彼方に見えるのは、左から焼山、火打山、妙高山。



天然記念物

「天然記念物」ってなんだ？ どうして文化財なの？



天然記念物は、「わが国(県)の成り立ち、広がり、行く末」を考える上で重要な自然の一断面を示すものですが、その名から想像されるイメージとは違い、人の営みが作り上げた森林や草原なども含まれます。また、「珍しい(少ない)」という基準で選ぶものではなく、象徴性に重きが置かれており、環境省のレッド・リストに掲載されている生物種と天然記念物の指定種とは全く違った構成になっています。

おおしかむら ちゅうおうこうぞうせん 大鹿村の中央構造線 (国天然記念物[地質鉱物]:大鹿村)

わが国最大級の断層で、大きく性格が異なる岩石の境界になっていることが特色です。大まかにいうと中央構造線の西側には、領家帯と呼ばれる花崗岩の仲間の岩石(中央アルプス宝剣岳や寝覚の床)が広がり、東側には三波川帯と呼ばれる緑っぽい岩の仲間が広がっています。

西日本では東西方向に走っている中央構造線ですが、長野県南部では南北方向の走向になっています。これも日本列島が現在の形になる過程で複数のプレートの動きがもたらしたダイナミックな地質活動の証拠です。中央構造線に沿っては人工衛星からも見える巨大な谷(断層谷)が刻まれています。このような谷は、険しい山地の中に人が行き来するのに都合がよいルートを生み出し、それに沿って街道(秋葉街道)や集落が生まれる土台となっています。



あんこう
中央構造線の安康露頭

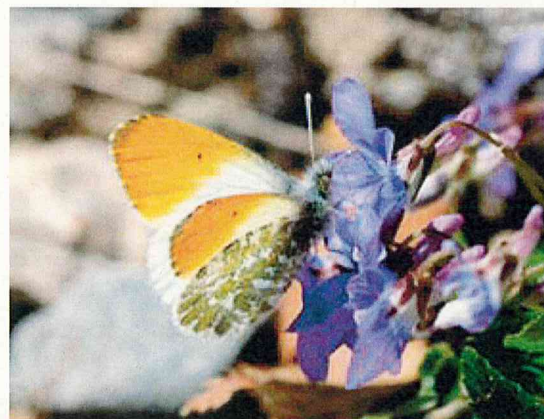
天然記念物に指定されているのは、この断層の様子が良好に観察できる二ヶ所の露頭(地層がむき出しになった場所)です。このうち、安康露頭を観察すると、中央と左側に黒い帯(ガウジ)があり、中央右寄りにも黒っぽい部分が見えていますが、この部分に地質境界があります。もし動けば大きな災害を引き起こす大断層なのに文化財だというのには、「わが国の複雑で災害が起きやすい地質構造を忘れない」という意味があります。



青崩峠から北に伸びる断層谷

クモツマキチョウ (県天然記念物[動物]:地域を定めず)

天然記念物の中には、「どこにいるかに関わらず、その『種』を指定」しているものもあります。「クモツマキチョウ」もその一つで、「高山蝶」と呼ばれる蝶の仲間です。



クモツマキチョウ:那須野雅好氏提供

漢字で書くと「雲間爪黄蝶」で、「雲間」は高山に生息することを、「爪黄」は羽先の印象的なオレンジ色をそれぞれ意味しています。かつて地球が寒冷だった時期に広く日本列島に分布していた種が、氷河期の終わりとともに分布域が北へと退き、一部の個体群が日本アルプスなどの標高の高い地域に島状に残っています。このような種を指定しているのは、山岳県長野の地質学的な成り立ちや、そこで営まれる独特の生態系を解明したり守っていくために重要と考えているからです。

霧ヶ峰湿原植物群落 (国天然記念物[植物]:諏訪市・下諏訪町)

霧ヶ峰に広がる三箇所の湿原(八島ヶ原、踊場、車山)が飛び地状に指定されています。全国の湿原と比較すると、わが国最南端にある高層湿原(植物の遺体が腐敗せず泥炭になる高冷地の湿原)で、特に八島ヶ原の東西二つの大きなドームは高層湿原の形成過程を体現するものとして貴重です。また、三つの湿原それぞれの形成過程や遷移の段階が異なることから、全体としてわが



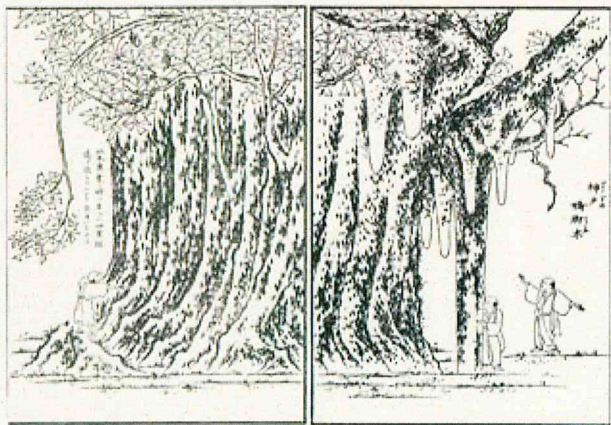
国の寒冷地における湿原形成の多様な姿を観察することができる重要な文化財です。また、周辺には星葉峠黒曜石原産地遺跡(18頁)や、これに関連する旧石器・縄文遺跡群、さらに中世の祭祀遺跡(県史跡:旧御射山遺跡/20頁)などが広がっており、霧ヶ峰一帯に広がる黒土形成過程の謎とともに、人の営みと草地や湿原との関わりを解明する上でも貴重な文化財と言えます。



八島ヶ原湿原

ごうと 神戸のイチヨウ (県天然記念物[植物]:飯山市)

神戸のイチヨウは県内最大のイチヨウの巨樹とされています。江戸時代末の『信濃奇勝録』という書物でも、飯山市の「小菅」を紹介する項に、あたかも小菅の看板のように太い樹幹が描かれています。人の寿命な



『信濃奇勝録』の挿絵(新編信濃史料叢書第十三巻より)

ど比較にならない老樹ですが、樹勢が良いので、葉の花越しに見る堂々たる姿は生命力にあふれています。

古樹になると幹や枝から「乳柱」と呼ばれる気根(機能には諸説あり)が垂れ下がるのがイチヨウの特色で、『信濃奇勝録』の挿絵のように、この木にもたくさんあります。こういうイチヨウは、粉ミルクが無かった時代には母乳が良く出る信仰の対象になることが多く、小菅地区の古文書を見ると、しばしば「乳木」という名で記されています。



くろいわやま 黒岩山 (国天然記念物[天然保護区域]:飯山市)

保護すべき天然記念物に富んだ代表的な区域を、その生態系ごとそっくり指定する天然記念物のタイプを「天然保護区域」と呼びます。県内では黒岩山と上高地だけがこの考え方で指



春の林床(シヨウジョウバカマ)

定されたものです。黒岩山の場合、飯山独特の豪雪や現地の地形・地質を基盤に、人が薪や炭を得るために分け入っては適度に伐採していたために、山の上でも豊かな湧き水がある明るい広葉樹林の環境が生まれました。ここは、ギフチョウとヒメギフチョウが両方生息することに象徴される、独特で豊かな動植物相が見られる里山です。近年は、薪を使わなくなって林相が変わってしまいましたが、地元の方々の努力で本来の姿を取り戻し始めています。人が関わらなければ成り立たない典型的な天然記念物と言えるでしょう。

結び包み込む天然記念物



天然記念物はもちろんそれ自体が一つの「自然的な文化財」ですが、今回ご紹介した例を見ていただければ、同時に全ての「人文的な文化財」の背景や痕跡として存在していることが分かります。わが国だけでなく国際的にも、真の文化財保護にはこのような周辺環境と一体となった手法で臨むことが重要だと考えられるようになってきています。

トピックス

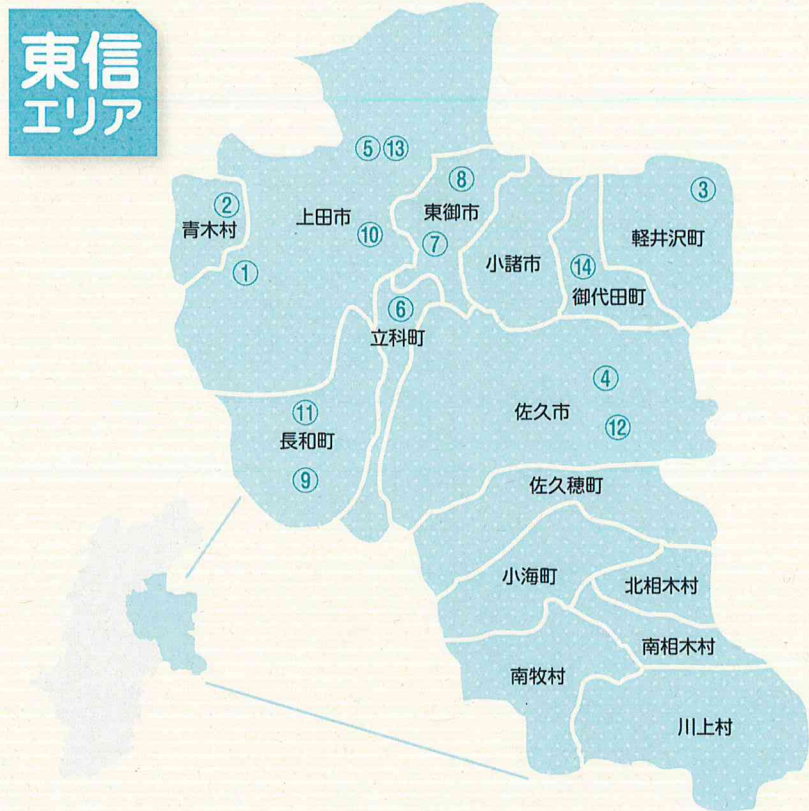
長野県内では、国指定24件(他に特別天然記念物4件)、県指定103件の天然記念物があります。

北信
エリア



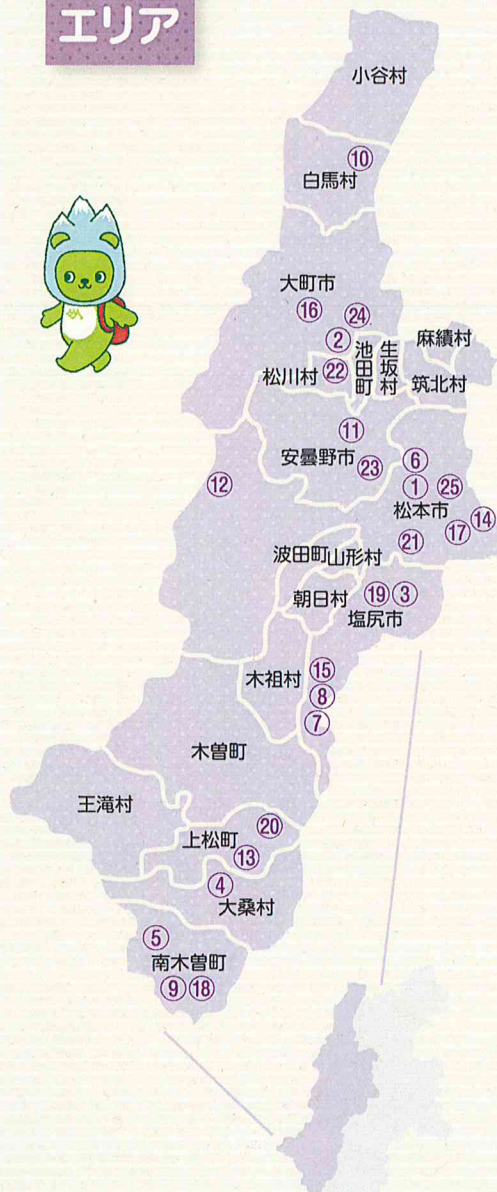
NO	区分	名称	所在地	紹介 No.	問い合わせ先	電話番号
①	建造物	善光寺本堂(国宝)	長野市	8	長野市教育委員会	026-224-7013
②	天然記念物	神戸のイチヨウ(県天然記念物:植物)	飯山市	30	飯山市教育委員会	0269-62-3342
③	天然記念物	黒岩山(国天然記念物:天然保護区域)	飯山市	31	飯山市教育委員会	0269-62-3342
④	文化的景観	娵捨の棚田(国選定重要文化的景観)	千曲市	22	千曲市教育委員会	026-261-3210
⑤	文化的景観	硫黄鉱山の文化的景観(須坂市米子)	須坂市	23	須坂市教育委員会	026-248-9027
⑥	文化的景観	小菅の文化的景観(飯山市)	飯山市	23	飯山市教育委員会	0269-62-3342
⑦	民俗文化財	小菅の柱松行事(国重要無形民俗文化財)	飯山市	15	飯山市教育委員会	0269-62-3342
⑧	民俗文化財	芦ノ尻の道祖神祭り(県指定無形民俗文化財)	長野市	15	長野市教育委員会	026-224-7013
⑨	史跡	森将軍塚古墳(国史跡)	千曲市	19	森将軍塚古墳館	026-274-3400
⑩	史跡	大室古墳群(国史跡)	長野市	20	長野市教育委員会	026-224-7013
⑪	史跡	松代城跡附新御殿跡(国史跡)	長野市	21	長野市教育委員会	026-224-7013
⑫	美術工芸品	絹本着色阿彌陀聖衆来迎図(国重要文化財)	長野市	2	善光寺大本願	026-234-0188
⑬	美術工芸品	千手観音菩薩立像(国重要文化財)	長野市	3	清水寺	026-278-3068
⑭	美術工芸品	鉦鼓(県宝)	中野市	4	中野市立博物館	0269-22-2005
⑮	美術工芸品	真田家文書(県宝)	長野市	4	真田宝物館	026-278-2801
⑯	美術工芸品	鳥羽院庁下文(国重要文化財)	千曲市	5	長野県立歴史館	026-274-2000
⑰	美術工芸品	長野県行政文書(県宝)	千曲市	5	長野県立歴史館	026-274-2000
⑱	埋蔵文化財	東條遺跡解説板	千曲市	17	長野県埋蔵文化財センター	026-293-5926

東信
エリア



NO	区分	名称	所在地	紹介 No.	問い合わせ先	電話番号
①	建造物	安楽寺八角三重塔(国宝)	上田市	8	上田市教育委員会	0268-23-6361
②	建造物	大法寺三重塔(国宝)	青木村	9	青木村教育委員会	0268-49-2224
③	建造物	旧三笠ホテル(国重要文化財)	軽井沢町	9	軽井沢町教育委員会	0267-45-8695
④	建造物	旧中込学校校舎(国重要文化財)	佐久市	9	佐久市教育委員会	0267-68-7321
⑤	建造物	上田城(県宝)	上田市	10	上田市教育委員会	0268-23-6361
⑥	建造物	津金寺宝塔(県宝)	立科町	11	立科町教育委員会	0267-56-2311(内線252)
⑦	建造物	東御市海野宿伝統的建造物群保存地区(国重要伝統的建造物群保存地区)	東御市	13	東御市教育委員会	0268-75-2717
⑧	民俗文化財	祢津東町歌舞伎(市指定無形民俗文化財)	東御市	14	東御市教育委員会	0268-75-2717
⑨	史跡	星嶺峠黒曜石原産地遺跡(国史跡)	長和町	18	黒曜石体験ミュージアム	0268-41-8050
⑩	史跡	信濃国分寺跡(国史跡)	上田市	20	信濃国分寺資料館	0268-27-8706
⑪	史跡	中山道(国史跡)	長和町	21	長和町教育委員会	0268-41-6123
⑫	史跡	龍岡城跡(国史跡)	佐久市	21	佐久市教育委員会	0267-68-7321
⑬	美術工芸品	反射望遠鏡国友一貫斎作天保五年(附覚書)(国重要文化財)	上田市	5	上田市立博物館	0268-22-1274
⑭	美術工芸品	川原田遺跡出土品(国重要文化財)	御代田町	7	浅間縄文ミュージアム	0267-32-8922

中信
エリア



NO	区分	名称	所在地	紹介ページ	問い合わせ先	電話番号
①	建造物	松本城天守(国宝)	松本市	8	松本市教育委員会	0263-34-3292
②	建造物	仁科神明宮(国宝)	大町市	8	大町市教育委員会	0261-23-4760
③	建造物	堀内家住宅(国重要文化財)	塩尻市	9	塩尻市教育委員会(内線3134)	0263-52-0280
④	建造物	池口寺薬師堂(県宝)	大桑村	10	大桑村教育委員会	0264-55-1020
⑤	建造物	旧御料局名古屋支庁妻籠出張所庁舎(県宝)	南木曾町	11	南木曾町教育委員会	0264-57-3335
⑥	建造物	旧松本カトリック教会司祭館(県宝)	松本市	11	松本市教育委員会	0263-34-3292
⑦	建造物	塩尻市奈良井伝統的建造物群保存地区(国重要伝統的建造物群保存地区)	塩尻市	12	塩尻市教育委員会(内線3134)	0263-52-0280
⑧	建造物	塩尻市木曾平沢伝統的建造物群保存地区(国重要伝統的建造物群保存地区)	塩尻市	12	塩尻市教育委員会(内線3134)	0263-52-0280
⑨	建造物	南木曾町妻籠宿伝統的建造物群保存地区(国重要伝統的建造物群保存地区)	南木曾町	13	南木曾町教育委員会	0264-57-3335
⑩	建造物	白馬村青鬼伝統的建造物群保存地区(国重要伝統的建造物群保存地区)	白馬村	13	白馬村教育委員会	0261-85-0738
⑪	文化的景観	安曇野のわさび田・鱒池	安曇野市池田町など	23	安曇野市教育委員会池田町教育委員会	0263-62-3090 0261-61-1430
⑫	名勝	上高地(国特別名勝及び国特別天然記念物)	松本市	25	松本市教育委員会	0263-34-3292
⑬	名勝	寝覚の床(国名勝)	上松町	26	上松町教育委員会	0264-52-2111
⑭	名勝	美ヶ原	松本市	27	松本市教育委員会	0263-34-3292
⑮	民俗文化財	木曾塗の製作用具及び製品(国重要有形民俗文化財)	塩尻市	15	塩尻市教育委員会(内線3134)	0263-52-0280
⑯	史跡	上原遺跡(県史跡)	大町市	19	大町市教育委員会	0261-23-4760
⑰	史跡	桐原城跡(県史跡)	松本市	20	松本市教育委員会	0263-34-3292
⑱	史跡	中山道(国史跡)	南木曾町	21	南木曾町教育委員会	0264-57-3335
⑲	史跡	平出遺跡(国史跡)	塩尻市	19	平出博物館	0263-52-1022
⑳	美術工芸品	絹本着色聖徳太子和朝先徳連坐影像附絹本着色阿弥陀如来絵像(県宝)	上松町	2	上松町教育委員会	0264-52-2111
㉑	美術工芸品	蔵王権現像(県宝)	松本市	3	牛伏寺	0263-58-3178
㉒	美術工芸品(国重要文化財)	銅造菩薩半跏像	松川村	3	観松院	0261-62-8776
㉓	美術工芸品(国重要文化財)	北條虎吉像	安曇野市	3	鎌山美術館	0263-82-2094
㉔	美術工芸品(国重要文化財)	御正体	大町市	4	大町市教育委員会	0261-23-4760
㉕	美術工芸品(国重要文化財)	宋版漢書慶元刊本	松本市	4	松本市美術館	0263-39-7400

南信
エリア



NO	区分	名称	所在地	紹介ページ	問い合わせ先	電話番号
①	建造物	矢彦神社(県宝)	辰野町	10	辰野町教育委員会	0266-41-1681
②	建造物	旧新井家住宅(県宝)	宮田村	10	宮田村教育委員会	0265-85-2314
③	建造物	旧座光寺麻績学校校舎(県宝)	飯田市	11	飯田市教育委員会	0265-22-4511(内線3575)
④	天然記念物	大鹿村の中央構造線(国天然記念物:地質鉱物)	大鹿村	28	大鹿村教育委員会	0265-39-2100
⑤	天然記念物	霧ヶ峰湿原植物群落(国天然記念物:植物)	諏訪市 下諏訪町	29	諏訪市教育委員会 下諏訪町教育委員会	0266-52-4141(内線582) 0266-27-1627
⑥	文化的景観	急傾斜地の居住・生業(飯田市の下栗集落)	飯田市	23	飯田市教育委員会	0265-22-4511(内線3575)
⑦	名勝	光前寺庭園(国名勝)	駒ヶ根市	24	駒ヶ根市教育委員会	0265-83-2111(内線722)
⑧	民俗文化財	大鹿歌舞伎(国選択無形民俗文化財)	大鹿村	14	大鹿村教育委員会	0265-39-2100
⑨	民俗文化財	中尾歌舞伎(市指定無形民俗文化財)	伊那市	14	伊那市教育委員会	0265-78-4111(内線2724)
⑩	民俗文化財	和合の念仏踊(国重要無形民俗文化財)	阿南町	15	阿南町教育委員会	0260-22-2270
⑪	史跡	尖石石器時代遺跡(国特別史跡)	茅野市	18	尖石縄文考古館	0266-76-2270
⑫	史跡	井戸尻遺跡(国史跡)	富士見町	18	井戸尻考古館	0266-64-2044
⑬	史跡	神坂峠遺跡(国史跡)	阿智村	20	阿智村教育委員会	0265-43-2220
⑭	史跡	旧御射山遺跡(県史跡)	諏訪市	20	諏訪市教育委員会	0266-52-4141(内線582)
⑮	美術工芸品	平沢文書(県宝)	飯田市	5	飯田市歴史研究所	0265-53-4670
⑯	美術工芸品	土偶「縄文のビーナス」(国宝)	茅野市	6	尖石縄文考古館	0266-76-2270
⑰	美術工芸品	土偶「仮面の女神」(国重要文化財)	茅野市	6	尖石縄文考古館	0266-76-2270
⑱	美術工芸品	藤内遺跡出土品(国重要文化財)	富士見町	7	井戸尻考古館	0266-64-2044